

JOURNAL



Contents

- 開業紹介…起業支援セミナー「起業への第一歩 ワンデー・カフェで自分の店を持つ」
- 特集…くめフォーラム2011「男女平等社会づくり 今日の一歩 明日を拓く」
記念講演「日韓の男女平等社会に向けて—九州と東北アジアの未来」筑前中
市長企画・映画
- 路上報道レポート…女性に対する暴力をなくすキャンペーン「性暴力被害者支援の現状と課題」
- 相談室だより…DV被害者が被害者にならないために
- 男女平等政策課からのお知らせ…手塚そう DVのない社会を次世代へ
- 登録団体紹介…筑後地区平和を守る女性の会
- 図書情報ステーション…理系を選んだ女性たち

2011
vol.39

http://www.city.kurume.fukuoka.jp

久留米市の男女平等推進センターの活動報告

すべての人の人間性を尊重し、多様な価値観を認め、社会を豊かにする。

「女性活躍推進法」が施行された。これは、1986年、男女雇用機会均等法の改正による。この法律は、男女の雇用機会を均等にすることを目的として制定された。その後の2004年、男女共同参画社会基本法が制定された。これは、男女の役割分担を柔軟に捉え、互いに協力し合う社会を目指すことを目的として制定された。また、2006年、男女共同参画社会基本法の一部を改正する法律が制定された。これは、男女の役割分担を柔軟に捉え、互いに協力し合う社会を目指すことを目的として制定された。



このセンターは、すべての人の人間性を尊重し、多様な価値観を認め、社会を豊かにする。このセンターは、すべての人の人間性を尊重し、多様な価値観を認め、社会を豊かにする。

図書情報ステーション

理系を選んだ女性たち

男子は理系が得意、女子は理系が苦手なんて誰が決めた？
現在、理系の道を進む女性たちとその環境を紹介した本です。

理系なお姉さんは苦手ですか？

理系な女性10人の理系人生カゲカゲ
内田真澄著 次亜評論社 2011年
著者は「この本は理系女性をもっとゆるく、気軽に
とらえてもらいたいと願って作った」とのこと。彼女
はまらない生き方をしている理系女性が次々と紹介され
ます。
「おま、こんな生き方もアリなのか！」と感服の一冊。



理系を選んだ女性たち

おもしろくてワクワク、傑作心アタシ
W.A.S.P. オーム社 2009年
「女性こそ理系を選んでほしい」と、東京理科大学の「理系のマドンナ」プロジェクトが、これから進路選択する女子中高生に送るメッセージ。理系を選んだ14人の女性が「理系はワクワクするおもしろいものだよ」と語ります。



サイエンスに挑む女性達

「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」プロジェクト
アズスリー 2009年
日本女子大学の「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」プロジェクトの成果と展望に加え、理系女性に関するデータも豊富に掲載。卒業生・在校生の声、育児と研究を両立する女性研究者たちの生の声もリアルに伝わってきます。
進路に迷っている女子高生にオススメの一冊です。



この冊子は、久留米市男女平等推進センターが作成したものです。

起業への第一歩 「ワンデイ・カフェ」で自分の店を持とう

コーディネーター：田中 美智子（総トータルオフィス・タナカ代表取締役社長）

結婚や出産で退職後、再就職や起業を考えている女性を対象に、起業への第一歩を踏み出してもらうセミナーを実施しました。体験者の話、飲食店視察、事業計画の立て方やカフェ体験をとおして具体的な企画を盛り込んだ内容で、起業を真剣に考えている受講生にとっては、夢の実現に一歩近づいたのではないかと思います。

第1回 起業のポイント①？・起業の形態

経営者の体験インタビューをとおして、起業の動機、開店までの準備、経営上の留意点などを学びました。また「起業」という働き方について考え、これまでの仕事経験を振り返りました。

「結婚もカフェ このひだまり」を運営
福岡 ひとみ さん

子どもの頃にアトピー性皮膚炎に悩まされた経験から「人にやさしいは地球にやさしい」をコンセプトにしている。



「アロマトリートメント&マクロビオティックショップ あいのわ」を運営
寺崎 都 さん

高崎市の空き店舗活用事業により起業セラピスト兼オーナー



第2回 飲食店視察・自分らしい店とは？

久留米市内の「サンパル食屋」と「ココチカフェ」を視察しました。オーナーの体験談を聞きながらランチをいただき、経営することの意味を体験しました。

第3回 コンセプト、メニュー作り、事業計画の立ち方

中小企業経営士から事業計画に向けての具体的な知識や手書き、事業計画の立て方を学びました。また起業についてのコンセプトが合う人達でグループを作りました。

第4回、第5回 メニュー決定・営業日程、リハーサル

カフェ体験で提供するメニューについてグループで話し合い、役割分担を決めました。スーパー等で材料や設備を調べ、原価と利益を考えた価格設定をすることの楽しさを感じました。その後、本番ながらリハーサルをしました。

第6回、第7回 ワンデイ・カフェ体験

ワンデイ・カフェをオープンし、接客、セッティング、サービス提供等を体験しました。みんなで協力しながら、臨時的にコンセプトどりのメニューとレイアウトが完成！



第8回、第9回 体験の振り返り、夢とめ

各グループのメニュー内容やサービス提供の仕方について振り返り、気づきや疑問の解消をしました。開店をとおして、起業することのやりがいと楽しさを実感しました。



セミナー終了後、早速受講生2名が4日間限定の「ギャラリー&カフェ」を開店されました。また、高齢者向けのカフェ、帯巻屋の店、ネイルアートの店などの開店予定者もいます。アンケートからは、「疑問点が解消になった」、「手取り足取りの内容は大満足だった」、「起業のための心構えや準備などについて具体的に聞いてもらった」などの声が寄せられました。

特集

くろめフォーラム2011

男女平等社会づくり 今日の一步 明日を拓く

9月24日から10月7日にかけて、「くろめフォーラム2011」が実行委員会と市の共催で開催されました。この事業は昭和58年に創設された「久留米女性連帯」を記念し、発足記念日である10月1日からの1週間に女性連帯と定め、毎年記念事業として実施しているもので、今年で23回目を迎えました。

今回のテーマ「男女平等社会づくり 今日の一步 明日を拓く」には、「男女平等社会を実現するためには、一人ひとりの地道な活動の積み重ねが必要であり、今日の一步を明日につなげていこう」との思いが込められています。

記念講演 「日韓の男女平等社会に向けて

—九州と東北アジアの未来—

講師：菅尚中

（東京大学大学院法学政治学専攻・現代韓国研究センター）



このレポートは10月1日発行された本誌の一部を転載したものです。

日本社会の現状

経済復興をめざさなければならない時期に、3月11日の東日本大地震が発生した。私も福島に行き、地域や家庭が崩壊して最も被害を受けやすいのは女性だということを感じた。様々な問題が生じている中、特に、小さい子どもを抱えた30代の婦人たちは放射線の危険性を感じ、子どもの未来について考えざるを得ない状況に追い込まれている。このような時こそ、「地域」がキーワードになるだろう。男であれ、女であれ、生活の場としての住んでいる地域が重要であり、かけがえのない場所である。今回の地震は「地域が我々の本拠地である」ということを様々な形で示してくれた。

社会関係資本の重大さ

一旦地域が崩壊すると、元に戻るのには困難である。円高により生産拠点は海外に移り、賃金は低下し、国や自治体は経費を削減している。日本政府は900兆円もの赤字を抱え、国民負担率や地域間格差が生じている。このような中、女性たちは仕事に出ているが、特に、離婚して母子家庭となった女性等は仕事に就きにくく貧困に陥りやすい。貧困に陥らないためには社会的な絆である家族や地域の支えが重要となる。このように人々の信頼関係やネットワークである「社会関係資本」が、様々な課題解決の基盤となる。

日本の自殺者は年間3万人を超えているが、男性の方が多い。この傾向は韓国にもあてはまり、日本の自殺率は10万人当たり24人～25人、韓国は28人前後と非常に高く、これは英米と比較すると、日韓では生き方の選択肢が狭いことに起因する。英米では仕事をする上で年齢による差別が少なく、やり直しがしやすいが、そうでない社会では有効なセーフティ・ネットがなければ、生きていくことは困難であろう。

新しい公共

「地域の多様性」は日本の特色であり、この多様性ゆえに日本には地域再生の未来が望める。内需主導型によって雇用を創出し、地域経済を活性化すべきだ。地域再生とは、経済的豊かさを上げることと社会関係資本を充実させることである。子育てする中で様々な人間関係を重ねながら、地域の雇用、住宅、環境などについて考えていくことで地域への帰属意識、つまり地域との一体感が生まれてくる。地域がベースになって初めて社会関係資本がセーフティ・ネットとなり、女性も若者も生かされることになる。そこでは地域住民が地域の事情について自分たちで考え、行政がこれを援助する形が望ましく、このシステムを「新しい公共」と呼ぶ。

市場が肥大し固定化した社会でなく、女性の社会関係資本が活かされ、女性が起業できる社会を次の世代に残さなければならない。日本には多様性と兼生力があり未来に可能性がある。そのためには女性も自分の能力を生かして活性化につなげることが重要である。活性化に10年はかかるであろうが、この10年の生き方が重要となる。

地域づくりに女性の参画を!



城島女性ネットワーク

「若者男女それぞれができることを少し探知して頑張らしましょう」と訴えられました。

未来を拓いた男女(あなた)たち



田主丸町女性ネットワーク

困難をとおして、一歩みだす勇気が大事であること等を語られました。

ラストプレゼント

～介護に学ぶ男女共同参画～



北野女性ネットワーク

「親が人生の糧の姿を命がけて育ててくれている。介護は親からの糧のやり柄です」とお話しいただきました。

東日本大震災の体験から

～災害下の女性の安全への取り組み～



NO!SHくるめ&グループ・せっせっせ

山台市のNPO法人ハーティー山台代表の八野悦子さんをお招きし、現地での女性支援について調査を行いました。「避難所の女性たちは、同じ切りしたい等の意見があっても、リーダーが男性なので意見が出しにくい状況にある」等、現地で実際に起こっていることについての報告があり、平時から男女平等の視点に立つ施設の必要性が提起されました。また、化粧品等女性が喜ぶものを被災地に届ける活動や、小物作りやお茶会の開催等の活動をスライドで紹介されました。えーるピア会議では、特別員として、被災地での活動についてのパネル展を開催しました。

KURUME FORUM 2011
市民企画

久留米市男女平等推進センター開館10周年を迎えた今年のくるめフォーラム2011。市内の43の団体・グループを中心に、総勢55人からなる実行委員会が結成され、約6ヶ月かけて準備が進められました。期間中は、鎌倉中さんの記念講演や映画上映、展示・パザールのほか、10団体・グループによる、えーるピア久留米や地域会場で市民企画が高進されました。講演会をはじめ、ワークショップ、管楽器の会場など工夫を凝らした多様な企画をご紹介します。



子どもへの性的虐待と支援

～もし学校で子どもが被害にあつたら～



Support of the child
「NO」と言うことや、相談することの大切さを、子どもにきちんと伝えることが重要との話がありました。

歌い上げようジェンダー

歌い上げよう楽しい人生



S・ば～びるリボン
男女平等の視点から、なじみのある曲を替え歌にして歌い上げました。

女性の貧困・子どもの貧困の現場に向き合う



女闘研・北京JAC九州in久留米
貧困問題の解決策について、当事者からの貴重な意見を交えて討論しました。

生きる-活かす介護保険



高齢社会をよくする会・久留米
「専断をもちた生き方が最後までできるような社会制度を作っていく必要がある」等と訴えられました。

久留米市に女性産業委員を!



久留米男女共同参画推進ネットワーク
これからの産業は女性の果たす役割が増える等の権限がありました。

介護と育児と男女平等



男女平等推進こんねっとわーく
高齢者の介護、働く女性、男性と介護・育児について現地での時間差短縮の後、グループに別れ、テーマについて議論しました。

映画 しあわせの雨傘

2010年 フランス
原作/脚本 フランソワ・オノン キャスト:カトリーヌ・ドヌーヴ、ジェラルド・ドヴィグー 他

1977年フランス。大女優カトリーヌ・ドヌーヴが演じるスザンヌは、朝のジョギングを日課とする優雅なブルジョワ主婦。ところがある日、雨傘工場を営む夫のロベールが倒れてしまう。夫の言いなりの「お前りの妻」スザンヌが、突然、夫に代わって雨傘工場の経営者になり、工場を再生していく物語。

「色とりどりの傘があれば人生の雨もまた楽しい」という彼女の生き方は、多くの共感を与えてくれました。



女性に対する暴力をなくすキャンペーン

女性に対する暴力は、女性に対する重大な人権侵害であり、男女共同参画社会を形成していくうえで克服すべき重要な課題です。毎年11月12日から「女性に対する暴力撤廃国際日」である11月26日までの2週間を、「女性に対する暴力をなくすキャンペーン」期間として、講演会や上映会、園遊会や上映会、園遊会や上映会等の事業を実施しました。

ここでは24時間休体制で被害者からの相談を受け付けている全国初の性暴力救護センター・大阪(SACHIKO)からの実践報告を紹介いたします。

性暴力被害者支援の現状と課題

～性暴力救護センター・大阪(SACHIKO)からの実践報告～



講演：北田 衣代

阪府中央病院産婦人科医長、「きただ女性クリニック」院長

(このレポートは11月26日に行われた講演の一部を要約したものです)

センター開設までの経緯

私は「女性はなぜ学習や就職の機会が奪われるのか?」、「仕事は女性特有の妊娠や出産にどのような影響を及ぼすのか?」という問題意識を抱いていたが、在学していた大学病院の「産婦人科医長」という雰囲気には違和感を覚えました。現在の阪府中央病院で、医師として患者と向き合い、社会的・経済的背景までを含んでアプローチすべきだという考えで診察してきた。その延長線上で、同僚産科医のハイリスク妊産婦研究会の活動の経験を生かして、2010年4月に「性暴力救護センター・大阪(SACHIKO)」を阪府中央病院内に開設した。

「性暴力救護センター・大阪(SACHIKO)」の開設

阪府中央病院は、1973年に創立された総合病院で、病棟数235、産婦人科医室に関しては7名で構成されている。差別問題に取り組んできたこの地の歴史的背景から、「医療差別を許さない地域医療」、「社会的差別と暴力にとりくむ産婦人科医療」を理念に掲げ、差別を受けている人々の権利被害に対して真摯に取り組んでいる。

1988年から「生活背景を考えた妊産婦管理」をモットーに事例研究を重ね、院内、院外との連携の支援ネットワークを構築してきた。その結果、産婦人科医、弁護士、児童相談所、草の根の女性団体等との連携で、日本初・唯一の24時間休体制の「性暴力救護センター・大阪(SACHIKO)」を開設した。センターの基本理念として、①被害者からの総合的支援、②当事者が「自分で選択」を大切にしたい支援、③被害からの回復と性暴力のない社会の実現のための啓蒙、を掲げ被害者に寄り添った対応をしている。

センターの特色は、①緊急事態の際に連絡が取れるための「24時間ホットライン」の開設、②産婦人科医室によるその場での診察、③カウンセラーによるカウンセリング、④小児科や精神科による診察、⑤弁護士・警察との連携である。1ヶ所でのこれらの救護体制(ワン・ストップ)の存在は被害者の精神的負担を減らす等、重要な意味を持つ。

「性暴力」とその種類

「性暴力」とは、「同意のない・同意でない・強制された性的行為のすべて」を意味し、①DVとしての性暴力、②子どもへの性虐待、③レイプ・強制わいせつ、等の性暴力をさす。これらは、「被害者である女性の性を踏みにじり、人間としての尊厳を奪う」という意味で、①～③まで全て同質のものであり、ただ被害者と加害者との関係が異なるだけである。

センター開設後1年間の電話相談は1463件、来所件数は387件、初診人数は128人にのぼる。レイプ・強制わいせつ被害者の件数でみると、2009年までは10件前後であったが、2010年は78件に増加している。被害者の年齢は16～1日歳が最も多く、加害者は近親者によるものも多くなる。

支援体制と課題

現在、センターの運営は寄付により成り立っているが資金は十分でなく、ボランティアの人数にも交通費と食事代しか支払っていない。また高い専門性を必要とするボランティアの数は絶対的に不足しており、24時間休体制の人材の確保は難しい状況にある。

性被害者は、強姦女性特有の被害を受け、人間関係を形成していく上でも多大の影響を受け、自分が悪いという罪悪感を持ち自分を責め続ける。それゆえ、性虐待に対しての産婦人科医長の果たすべき役割は重要である。実際に被害者を出していない被害者の診察費は有料だが、センターでは配慮している。全国に同様のセンターを開設してもらいたいと考えている。関係者や市民の理解を高め、支援者が増えてほしいとの思いを込めて呼びかけている。

相談室だより

相談室では、性暴力被害者からの相談を受け付けています。相談内容は、①相談・情報提供、②相談・情報提供、③相談・情報提供、④相談・情報提供、⑤相談・情報提供、⑥相談・情報提供、⑦相談・情報提供、⑧相談・情報提供、⑨相談・情報提供、⑩相談・情報提供、⑪相談・情報提供、⑫相談・情報提供、⑬相談・情報提供、⑭相談・情報提供、⑮相談・情報提供、⑯相談・情報提供、⑰相談・情報提供、⑱相談・情報提供、⑲相談・情報提供、⑳相談・情報提供、㉑相談・情報提供、㉒相談・情報提供、㉓相談・情報提供、㉔相談・情報提供、㉕相談・情報提供、㉖相談・情報提供、㉗相談・情報提供、㉘相談・情報提供、㉙相談・情報提供、㉚相談・情報提供、㉛相談・情報提供、㉜相談・情報提供、㉝相談・情報提供、㉞相談・情報提供、㉟相談・情報提供、㊱相談・情報提供、㊲相談・情報提供、㊳相談・情報提供、㊴相談・情報提供、㊵相談・情報提供、㊶相談・情報提供、㊷相談・情報提供、㊸相談・情報提供、㊹相談・情報提供、㊺相談・情報提供、㊻相談・情報提供、㊼相談・情報提供、㊽相談・情報提供、㊾相談・情報提供、㊿相談・情報提供、〇相談・情報提供、一相談・情報提供、二相談・情報提供、三相談・情報提供、四相談・情報提供、五相談・情報提供、六相談・情報提供、七相談・情報提供、八相談・情報提供、九相談・情報提供、十相談・情報提供、十一相談・情報提供、十二相談・情報提供、十三相談・情報提供、十四相談・情報提供、十五相談・情報提供、十六相談・情報提供、十七相談・情報提供、十八相談・情報提供、十九相談・情報提供、二十相談・情報提供、二十一相談・情報提供、二十二相談・情報提供、二十三相談・情報提供、二十四相談・情報提供、二十五相談・情報提供、二十六相談・情報提供、二十七相談・情報提供、二十八相談・情報提供、二十九相談・情報提供、三十相談・情報提供、三十一相談・情報提供、三十二相談・情報提供、三十三相談・情報提供、三十四相談・情報提供、三十五相談・情報提供、三十六相談・情報提供、三十七相談・情報提供、三十八相談・情報提供、三十九相談・情報提供、四十相談・情報提供、四十一相談・情報提供、四十二相談・情報提供、四十三相談・情報提供、四十四相談・情報提供、四十五相談・情報提供、四十六相談・情報提供、四十七相談・情報提供、四十八相談・情報提供、四十九相談・情報提供、五十相談・情報提供、五十一相談・情報提供、五十二相談・情報提供、五十三相談・情報提供、五十四相談・情報提供、五十五相談・情報提供、五十六相談・情報提供、五十七相談・情報提供、五十八相談・情報提供、五十九相談・情報提供、六十相談・情報提供、六十一相談・情報提供、六十二相談・情報提供、六十三相談・情報提供、六十四相談・情報提供、六十五相談・情報提供、六十六相談・情報提供、六十七相談・情報提供、六十八相談・情報提供、六十九相談・情報提供、七十相談・情報提供、七十一相談・情報提供、七十二相談・情報提供、七十三相談・情報提供、七十四相談・情報提供、七十五相談・情報提供、七十六相談・情報提供、七十七相談・情報提供、七十八相談・情報提供、七十九相談・情報提供、八十相談・情報提供、八十一相談・情報提供、八十二相談・情報提供、八十三相談・情報提供、八十四相談・情報提供、八十五相談・情報提供、八十六相談・情報提供、八十七相談・情報提供、八十八相談・情報提供、八十九相談・情報提供、九十相談・情報提供、九十一相談・情報提供、九十二相談・情報提供、九十三相談・情報提供、九十四相談・情報提供、九十五相談・情報提供、九十六相談・情報提供、九十七相談・情報提供、九十八相談・情報提供、九十九相談・情報提供、百相談・情報提供。



男女平等政策課からのお知らせ

手塚どう DVのない社会を 次世代へ

久留米市では、全国に先駆けて平成22年11月に「DVのないまちづくり宣言」を行いました。

DV撲滅に向けた取り組みを進めるために、ポスターの発表と街頭を巡覧し、観客41点、観覧132点の応募がありました。最優秀賞の発表を前に「DVのないまちづくり宣言」を掲載したポスターを、また最優秀賞の頒布を前に観覧券を作成しました。

これらを活用し、これから市民の皆さんと力をあわせてDVのないまちづくりに取り組んでいきます。

ドメスティック・バイオレンス(DV)のないまちづくり宣言

人はだれもが、かけがえのない個人として尊重され、安全に安心して暮らす権利をもちます。しかし、DVによる被害は決して許されません。

DVとは、配偶者間や友人同士など親密な関係のなかでおきる、さまざまな暴力のことをいいます。DVは人を暴力で支配する行為であり、体や心を傷つけ、命を奪うことさえある重大な人権侵害です。

DVはいかなる理由があっても許されるものではありません。久留米市は、市民と協働して、DVのないまちづくりに邁進することを決意し、ここに宣言します。



「ストップ!DV」ポスター
西マコさん(久留米市田丸町)
の作品を基に作成。
大がかりでDVを止めようという
思いを込めて、「V」をかたど
ったハートで胸つたいを囲いで
います。



観覧を始めた観覧券
頒布は久留米市分館の
女性の作品。